

一般道や高速道、民間駐車場などのアスファルト舗装工事を手掛ける。特に、高度な舗装技術が求められるサッカー場や野球場などのスポーツ施設が得意だ。都内からも発注があり、熊谷康晴社長(46)は「県内外を問わず、依頼があれば対応し、誠実なものづくりをしていきたい」と語る。

舗装工事に関し、自社ですべてこなせる点が強みだ。外注を使わないため、客のニーズに直接応

えられる。安全面でも、よく知る社員同士なので事故防止が徹底できる。生産性向上や省力化を目的に国が進めるICT(情報化)施工に積極的に

取り組む。4年前、コンピュータで通信指令を出し建設機械を半自動的に操縦できるシステムを導入した。アスファルトをひく前の下地段階で碎

石を平らにする重機や、アスファルトを均一にひく重機を使う。熟練者に頼ってきた高度な作業が、計画通り簡単にできるようになった。

建設土木業の2024年問題や働き方改革にもいち早く取り組む。勤務時間は午前7時〜午後4時半。終業後、社員が趣味や家族との時間を持つようにとの狙いもあるが、朝早い出社は現場への移動も労働時間に組み込むためだ。車で10分ほどでも1時間以上かかる現場でも、午前7時に会社に集合して向かう。午後4時半までに戻れない場合は残業代を支払う。

「地元の役にたつ、若者が働きやすい企業として100年企業を目指したい」と熊谷社長は語る。(真田尚子)

スカイロード



自社で所有するアスファルト舗装時に使う重機と熊谷社長

高い舗装技術で誠実に

〈すかいロード〉松本市村井町西2-3-5。アスファルト舗装工事を中心に手掛ける。平成25(2013)年、土木会社に勤めていた熊谷康晴社長が独立し創業した。社名に「空に昇るような道をつくっていきたい」との思いを込める。社員28人、平均年齢33歳。



大きな重機を使って進められる道路のアスファルト舗装工事

注目!!この数字

約600件

1年間にアスファルト舗装をする施工件数。1日、平均三つの現場で舗装工事を進めている。建物の建設工事と違い、一つの現場にかかる時間が比較的短いため、多くの現場を訪れることができるのは魅力だという。

導入時に反対もあったが、熊谷社長の「一緒に働く人を大事にしたい」との思いで実現させた。土曜日の受注を減らし

休日確保にも取り組む。「地元の役にたつ、若者が働きやすい企業として100年企業を目指したい」と熊谷社長は語る。(真田尚子)